

第 11 回長野市総合計画審議会作業部会 教育部会 会議録（概要）

日 時：平成 18 年 7 月 6 日（木）

午後 1 時 30 分から

場 所：第一庁舎 8 階 第二委員会室

（ 1 ）第 5 回長野市総合計画審議会について

<事務局から、6月6日開催の総合計画審議会で、国際化に関する施策を都市整備分野から教育・文化分野へ移行することで了承された旨を報告>

（ 2 ）基本計画骨子案（教育分野）について

作業副部長 ・ 2 回に渡って見てきた内容なので、全体一括で質問、意見があればお願いしたい。

作業部会員 ・ 施策 431-01 の下から 2 点目の主な取組については、「歴史ある文化」という表現はあまりしないかと思うので、「歴史と風土に育まれた“ながの”独自の文化の効果的な発信」とした方がわかりやすいのではないかと。

事務局 ・ 委員の皆さんのご意見をお聞きして修正したい。

作業副部長 ・ この件について他になければ、ご提案の通り修正していただくことでお願いしたい。

・ 施策 411 - 03 の取組の 4 点目に、「自然に障害児と・・・」との表現があるが、「自然に」の意味がはっきりと分からないので違う言葉に置き換えた方がよいのでは。

作業部会員 ・ 「自然に」を削除するとどうなるだろうか。自立学級と普通学級の生徒の交流は、意図的に設定された場であっても自然でなければいけない。また、盲・聾・養護学校の子どもたちとの日常活動での交流もあるので、何を指しているのか分からない。学校現場の実際の取組を考えると、「障害児と接しながらお互いがともに伸びあっていく・・・」とした方がよいかもしれない。

作業部会員 ・ 「・・・ともに障害児と歩むことができる育成支援体制の整備」としたらどうか。

事務局 ・ 取組の方向性が変わるものではないので、素案化する際に分かり易い表現にするということをお願いしたい。

作業部会員 ・ 施策 411 - 02 の目標に、「創造力や感性の養成」とあるが、「教員の養成」などの使い方があるように、「養成」は目標とシステムがあって何か課せられたものがある時に用いるもので、「育成」はもう少し広く捉えられる言葉ではないかと思う。創造力や感性に関しては「育成」とした方がよいのではないかと。

・ 表現はわかりやすくなっていて、この内容で良いかと思うが、我々委員

は、計画の構造を考え、相互の関連性を見ながら、読み直してみる必要があるのではないかと感じた。

専門部会員 ・施策 411 - 03 の新たに追加した取り組みについては、福祉部会の委員さんから、交流を一步進めた形の取組ができないかとの意見があり、それを反映したものである。骨子として簡略化しているため、主語が省略されているが、「障害のない子どもと障害のある子どもが自然に接することができる育成支援体制の整備」という意味である。今後詰めていく段階でもう少し練らせてもらえればと思う。

作業副部長 ・事務局で整理をお願いします。

事務局 ・施策 411-02 の目標の表現については、後ほど確認して必要があれば修正をしたい。施策 411 - 03 については、素案化の際に分かりやすい表現とすることとしたい。施策 431-01 については、「歴史と風土に育まれた“ ながの ” 独自の文化の効果的な発信」としたい。

作業副部長 ・事務局でまとめてもらったが、教育部会では、この内容で8月の審議会に報告していくということによろしいか。

<了承>

### ( 3 ) 指標の設定 ( 教育分野 ) について

作業副部長 ・全体を通して何か質問などあったらどうぞ。

作業部会員 ・よくわからない。学校現場の経験もあるので、市民と教員の両方の立場から見ているが、例えば施策 411-02 は他にも項目が出てくるのか。

・アンケート調査によるということだが、例えば「子どもたちが健やかに育っていると思う市民の割合」と指標名との関係はどうなっているのか。

専門部会員 ・資料3の基本計画で見ていただくと、18 ページの基本施策 411 「魅力ある教育の推進」の方針の下に指標項目とあるが、ここに「子どもたちが健やかに育っていると思う市民の割合」が入り、19 ページからの各施策の指標項目の欄には、資料4の4、5 ページに書かれている指標が入っていくというイメージである。

作業部会員 ・構造はわかったが、施策 411 - 02 は、この指標で小・中学校の教育内容の充実を見ることができるのだろうか。子どもの理解度に応じた指導は学力を示すものが必要ではないか。地域の特色をいかした学校づくりも、外部人材を取り入れることがそれにつながるのか。この指標 1 つだけで評価することはできないのではないか。

・施策 411 - 03 についても、復帰後にどのような状況で学校に来ているかは子どもによって違うので、数値の減だけでは評価できないのではないか。

- ・内容を具現し、効果としてあげていくためには、何を指標として挙げていくかの吟味がもっと必要だろうと思う。
- 作業副部長
  - ・指標の作り方でこの部会ないし総合計画の見識が問われるだろうと思う。数値化や定量化して見なければならぬ中で、第三次総合計画から積み重ねてきたデータもあるし、分かり易いものを使っているということもあるかと思うので、バランスを見ながら議論していければと思う。
- 作業部会員
  - ・代表的な指標として捉えているという注意書きがあればよい。この指標1つで施策全体の評価をすと思われぬようにしておく必要がある。
- 作業部会員
  - ・指標の設定は以前から難しい作業だと思っていて、知りたいことと違うものが沢山あると感じている。また、指標設定が馴染むものと馴染まないものがあるかと思う。
  - ・指標設定できる数値としては、行政が把握できる数値のみとなるのか。民間が持っている数値を挙げていくことは可能なのか。具体的に言うと、施策431-01で案として挙げられているものは市民ギャラリーに限られているが、長野市内には沢山のギャラリーがある。市内のギャラリー・展示スペースの数や坪数は指標になり得る数値だと思うが、民間なので現段階では行政は把握していないかと思う。
- 事務局
  - ・指標の考え方が、1つの施策に対し主な取組がいくつある。その中から最も客観的に市民の皆さんに分かりやすく示すことができるものを指標としている。指標はできるだけ成果指標としている。毎年進捗管理をしていくものなので、行政が把握できる数値でないと設定できない。今回は、たたき台として提示しているものなので、自由にご意見いただきたい。
- 作業副部長
  - ・続いて個別に見ていきたい。4ページについていかがか。
  - ・指標は、前回の第三次総合計画から引き継いでいくものもあるということか。
- 事務局
  - ・第三次総合計画で設定した指標を引き継がなければならないという決まりはないので、新たな目で見えていただき、施策の進捗状況を計る目安となる代表的な指標とすることがよいかご意見をいただきたい。
- 作業部会員
  - ・指標がどのようなものを理解するとこれで良いような気がするが。
- 作業副部長
  - ・指標自体に問題があるというより、指標を設定した後の事業の進め方にかかってくるのかと思う。目標値を達成するために、本来の目的に沿わない形をとってもいけない。例えば、施策421-01のは、一人あたりの貸出冊数を5冊から10冊に伸ばせば数値自体は上がるが、図書館の新たな利用が増えるということではない。
- 作業部会員
  - ・施策411-02の指標は、外部人材数が増えれば良いということか。
- 専門部会員
  - ・主な取組に「社会人講師の招聘など地域の特色や教育力を活用した特色ある学校づくり」を挙げているが、この取組がどの程度進んでいるのか

- を計る1つの目安にはなるかと考えている。ただ、これだけで全てを計れるとは思っていない。
- 作業副部長 ・ 指標設定のスケジュールを教えてください。今回は何かを決定するという事ではないということでしょうか。
- 事務局 ・ 今回は自由に忌憚なきご意見をお伺いして、次回までにいただいたご意見を踏まえてより良い指標の設定ができないか検討した上で、再度議論いただくようになる。
- 作業部会員 ・ 全て外部講師に任せてしまい、本来の教育が行われなくなってもいけない。外部講師を計画性をもって呼んでくるということでしょうか。
- 専門部会員 ・ 指標の定義に「計画的に活用する」と記載してるように、闇雲に登用するという事ではない。
- 作業部会員 ・ この指標がいけないというわけではないが、数の問題は、このようなことをはらんでいるので気をつけなくてはならない。
- 作業副部長 ・ 続いて、5ページについていかがか。
- 作業部会員 ・ 施策431-01については、行政が把握している数値で図ることは不可能に近いのではないかいうことを意見として申し上げておくが、行政が把握できないものは設定できないということを前提として考えると、この内容で良いのではないかと思う。
- ・ 施策431-01は、若里市民文化ホールの数値が抜けている。これから文化の創造といった時に、発表の場より練習の場の方が重要だということもあるので、もんぜんぷら座の地下スタジオの数値も入れていただきたい。
- ・ 施策431-01の は、松代の文化財案内ボランティアだけの数値かと思う。善光寺表参道の案内ボランティアや善光寺内の外国人に対するガイドボランティアの数値もあると思うので入れていただきたい。
- 作業副部長 ・ 施策451-01の は、スポーツをどのように捉えるのか、アンケートの作り方によって出てくる数値が変わってくるかと思う。
- ・ 施策441-02は、数値を上げたければ、スケートなどの個人種目に力を入れるのではなく、ラグビーなど団体スポーツに力を入れて拠点作りをすれば、1つの種目で多くの人数を国体に送りこめることになる。運用自体に難しさがあるかな。と感じている。
- ・ 次に、基本施策の指標についていかがか。
- 専門部会員 ・ 26番の魅力ある教育の推進の項目は、このようなアンケートをとっても意味があるだろうか。
- 作業部会員 ・ 質問は、指標項目1つに対して1つなのか。
- 事務局 ・ 1つの基本施策に対して1つの指標設定とし、質問も1つとなる。
- 作業部会員 ・ 最終的にどのような結果を見たいのかを考えた上でアンケート項目を考えないといけない。どのようなものを期待しているのか、期待像をバックとしてほしい。

- 作業副部長 ・アンケートの内容は行政側で考えていただけるのか。  
事務局 ・修正の必要は大いにあるかと思うので、十分煮詰めて事務局側で考えた  
いと思っている。

(4) 行政経営分野について

- 作業部会員 ・施策 032-01 に、「集客プロモーションパートナー都市」とあるが、これ  
はどのようなものなのか。  
事務局 ・現在、上越市と集客プロモーションパートナーシップという都市と都市  
の協定を締結している。これは、交互に行き来し、両市の良いところを  
互いにアピールできるようにネットワークをもって進めていくというも  
のである。このような取組を今後増やしていこうと考えている。

4 その他

- 事務局 ・開催を予定していた7月27日の作業部会は取り止めとし、次回の作業部  
会は8月28日(月)午後1時30分からとしたい。

以上